

2019 年級漁獲アユの漁期漁法別ふ化日組成

松田直往・久米弘人・田中秀具

1. 目的

琵琶湖産アユのふ化時期は9月から11月まで約3ヶ月におよび、ふ化したアユは12月から翌年8月中旬までの漁期中に様々な漁法で漁獲される。これまでに、漁獲されたアユのふ化日が漁期漁法別に調べられている(田中, 2003 ほか)。今年度は、これまで未調査であった漁期漁法について調べることと、年変動の程度を把握することを目的とした。

2. 方法

エリ(12~8月)、ヤナ(3~7月)、小糸網(3~8月)、調査用の沖曳網(3月)、追いさで網(5月)および沖すくい網(6~7月)で漁獲された2019年級のアユ各60個体を分析した。耳石扁平石の日周輪数からふ化日を推定し、1999年級漁獲アユのデータ(田中, 2003)と比較した。

3. 結果

エリでは、12月から1月には主に早生まれ(9月生まれ)が漁獲されたが、その後遅生まれ(10月生まれ)も加わり、6月以降は遅生まれが主体となった。

ヤナでは、同時期のエリと比較して早生まれのアユが漁獲される傾向にあったが、7月にはエリと同様に遅生まれが主体となった。小糸網では、5月までは早生まれが主に漁獲されていたが、以降は急激に遅生まれ主体に移行した。5月の追いさで網では早生まれが漁獲されていた。沖すくい網では、6月には早生まれから遅生まれまでが万遍なく漁獲されており、7月には遅生まれが主に漁獲されていた。これらの傾向は1999年級のアユの結果とおおむね一致したが、今年度は比較的遅い時期まで早生まれの貢献度が高かった(図1)。

以上の結果は、毎年行っている産卵調査の結果と組み合わせることで、漁況予測や資源評価の参考資料として活用できるが、耳石による日齢査定は日齢が大きくなるほど困難になることから、特に漁期後半についてはその精度に注意が必要である。

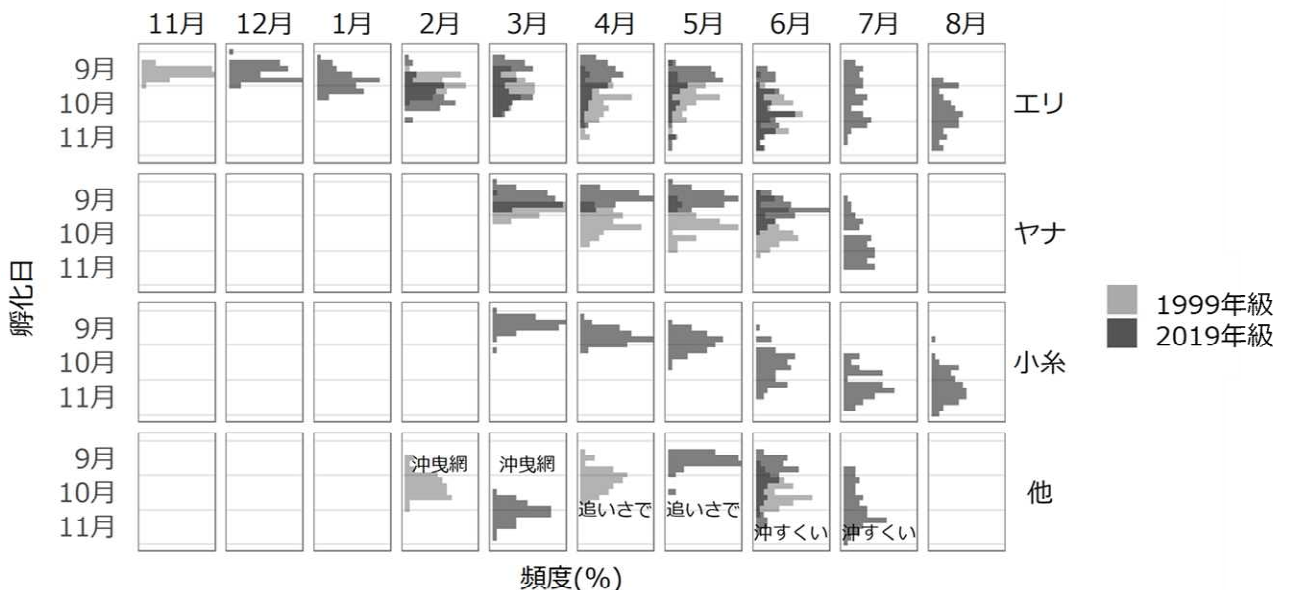


図1. 漁期漁法別の漁獲アユのふ化日組成

引用文献 田中(2003). 琵琶湖産アユのふ化時期からみた漁期・漁法別特徴. 滋賀県水産試験場研究報告 50号